

## 学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

## 【研修参加者】

所属(学部(研究科)・学年): 法文学部(人文学科)3年

氏名: 稲葉陽音

授業科目名	グローバル実地研修
1. 研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>午前中の西オーストラリア大学の授業では全てが英語で行われた。クラスにはアジアの様々な国からの留学生がいたため、休み時間や放課後の交流を通して積極的に英語に触れることができた。授業の内容として面白かったのは、グループに分かれて一つのテッドトークを4つの視点から分析し、レジュメを作りそれを互いに持ち寄ってスピーチのテーマに沿ってディスカッションするというものだ。毎回議論を呼ぶテーマが与えられ、それを私とは違った背景を持つクラスメイト達と話し合うことで、自分の意見を英語で分かりやすく伝える能力がついたと同時に、現在の社会問題について深く知り視野を広げることができた。研究においては公共交通機関、特にバスに着目し鹿児島島のバスと比べながら調査を行った。平日はほぼ毎日バスを利用していたので、乗客や車内の様子、設備など様々な観点から研究することができたと思う。</p>	
2. 現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>オーストラリアは日本と比べ、フレンドリーでオープンマインドな人が比較的多い印象を受けた。道ですれ違ったり飲食店で隣の席になったりしたときにスマールトークが行われることが多く、また私がホームステイした地域では近所の人々同士の関わり合いが強いように感じられた。同じ場所で同じ時を過ごす人として互いに興味を持っており、支え合って生きているという感覚を得ることができた。また大学全体がLGBTQ+に寛容的であり、LGBTQ+への理解を呼びかけるイベントが行われていたのを見て、鹿児島大学と比べて人々の個性を積極的に尊重しようとしている姿がうかがえた。</p>	
3. 研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>自主性と協調性が身についたと考える。ホストファミリーと過ごす中でお腹が空いたときに「“help yourself”で勝手に冷蔵庫やパントリーを開けていいよ」と言われたことは些細なことではあるが、日本では人の家の冷蔵庫を勝手に開けることはしないので少し衝撃を受けた。またホストファミリーとの会話を通して、自分のしたいことや目標は誰かに頼むのではなく、たとえリスクがあっても自分で計画して自力で達成することが大切であるということも学ぶことができた。また大学では様々な国からの留学生と意見を交換する上で私には考えられない、賛成できない意見に出会うことも多かった。しかしながらその発言の背景を理解しようと努力することで円滑でより深い関係性を築くことができるようになったと感じる。</p>	
4. 地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>今回のパース留学を通して様々な国籍やルーツを持つ人々と関わり、今までの自分の世界観や考え方が大幅に広がったと感じた。パースではLGBTQ+の人々の人権を考える日や、人々に元気かどうか尋ねることを促す“Are you Ok? Day”、メンタルヘルスについて考える日など、人々がその問題を日常的にまたは楽しく意識できる工夫がなされていた。鹿児島でも楽しく身近に社会問題を考えられるよう、まずは身近な人に話し試してみると同時に、自治体などでそのような取り組みができないか考えてみるのも興味深いと思う。また今回はパースで運行されているバスに着目して研究を行った。鹿児島でも引き続き調査を行い、鹿児島におけるバス運行の課題点や改善点を探っていきたい。</p>	

## 学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

## 【研修参加者】

所属(学部(研究科)・学年): 法文学部人文学科3年

氏名: 蘭田真音

授業科目名	グローバル実地研修
1. 研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>UWAのCELTでは事前に受けたレベル分けテストをもとにクラス編成が成され、授業を受けた。日本の夏休み期間だったこともあり、日本の学生が大半だったが授業中はもちろん、英語を使って互いに勉強を行っていた。基本的に1週間で1つのユニットを扱った。文法やリスニング、リーディングの他にグループワークやプレゼンテーションもあったため、4技能を満遍なく鍛錬できた。個人的に一番苦手なライティングは毎回先生が細かく採点をし、間違っているポイントにマークをつけてくれたので、自分が前置詞と時制で間違いやすいと認識することができた。また、タームが終わる際に受け取った学校の成績は、技能別で点数が出されたため自分の英語の得意不得意を知ることができた。</p>	
2. 現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>現地でオーストラリアの多文化社会を強く実感した。スーパーに多文化商品が多く並んでいたり、ファンデーションの色展開が多かったり、多様な言語が聞こえたりした。問題となっている水不足や住居問題についても考えさせられた。ホームステイ先では節水のため余程皿が汚れていない限りそのまま食洗機に入れたり、食器でうまるまで食洗機を2、3日使わなかったりした。またコロナによる失業や住居の高騰から街にホームレスが多く、道路でサインを持つ人がいたり、学生へのアコモデーション提供が呼び掛けられたり、ホームレスのための集金目的で雑誌を売る人がいたりと深刻さを感じる事となった。そして治安の良さや物価、時間感覚など住み慣れた日本の良さを見つけれられた5週間だった。</p>	
3. 研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>コミュニケーションとチャレンジ精神に変化があった。今まで外国人と話す際ミスを恐れて積極的に話せなかった。研修前にミスをして誰も気にしないからたくさん話そうと決めていた。ホストファミリーや学校の先生、街で話しかけてくれた人など機会があれば話した。そのため相手に会話を任せていた研修前と比べ、自分のことを話したり、相槌を打ったり、質問をたくさんしたり英語でのコミュニケーションの取り方が上手くなった。また私は食で冒険ができないが、オーストラリアではさまざまな食べ物にチャレンジできた。好き嫌いが分かれるベジマイトや日本では滅多に食べないカンガルー、エミュー、ラクダなどのお肉にチャレンジした。新しいことをたくさん経験することでより多文化を楽しむことができた。</p>	
4. 地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>自分自身が外国語を話せると表面的なことだけではなく細かいニュアンスを理解することができ、また自分の興味関心に沿って質問したり話したりすることができるため、外国語の学習は今後も継続していきたい。現在は英語を主に学んでいるが、関心のある他の言語にも挑戦したい。また今回の研究でオーストラリアの魅力や問題が見えたように、さまざまなことにチャレンジして自分の視野を広げることがこれからの目標になった。自分の視野が広くなければそもそも多くのことに関心を持つことができないため、チャレンジすることが重要になるだろう。視野が広がればさまざまなことに関心を持てば、知識や経験、アイデアなどで地域社会の発展に寄与できると考えた。</p>	

## 学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

## 【研修参加者】

所属(学部(研究科)・学年): 法文学部・人文学科・3年

氏名: 山口愛心

授業科目名	グローバル実地研修
1. 研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。(250～300字程度)	
<p>西オーストラリア大学英語教育センターに5週間通い、リーディング・リスニング・ライティング・スピーキングの4項目を伸ばすための授業を受講した。授業は教科書に沿って行われ、3・4週目には4項目それぞれテストが行われた。テストでは全ての項目において次のレベルに昇級できるとされる70点以上を取ることができた。また、通学と並行して現地で公共交通機関の調査を行った。自らの設定した「パース市の公共交通機関と比較し、鹿児島の公共交通機関における諸問題を解決する」といったテーマに基づき、そのヒントとなるような情報を収集した。</p>	
2. 現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。(250～300字程度)	
<p>オーストラリアという国は、これまで授業で習った通り、本当に多様な民族が共生している多文化社会であるということを実感した。現地では、人々が互いの文化を尊重しながら生活していた。たとえば、街にはアジア系レストランや日本人向け・韓国人向けスーパーマーケットなどが多く存在し、多種多様な国の人々が生活しやすい環境であると感じられた。グローバル化が進む今日において、多くの国がオーストラリアの多文化共生の形を見習うべきであると考えている。外国人が孤独さを感じない、自分の文化を制限せずに生活できる、といったような社会を構築することが重要なのではないかと今回の研修を通して実感した。</p>	
3. 研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。(250～300字程度)	
<p>研修前、また研修初期の頃は、英語で日常会話をすることに慣れていなかったために、ホストファミリーや現地の学校の先生と話すことに抵抗があり、なかなか自分から話すということができずにいた。しかし、このままでは語学力も伸びないと感じ、自分から話をする心を心がけた。拙い英語で話すスピードも遅かったが、ホストマザーが熱心に聞いて会話を続けてくれたことで自分の英語でもなんとか伝わるのだと自信が持て、以降英語で話すことに抵抗がなくなり、同時にチャレンジすることの重要性を実感することができた。</p>	
4. 地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。(250～300字程度)	
<p>今回の実地研修で、私は主にオーストラリア・パース市の公共交通機関事情を調査した。現地の公共交通機関の制度は非常に発達しており、鹿児島の公共交通機関の発展に役立つような情報も数多くあった。以前、鹿児島市のホームページを調べたところ、移動に不便さを感じている住民が多く存在していることを知った。この問題を少しでも改善するため、今回の調査で得たことを報告会でお知らせできるように、まとめていきたい。また、最近では鹿児島でも外国人観光客を多く目にするようになった。大まかな目標ではあるが、自分がパース市で快適に過ごせたように、鹿児島を訪れた人々に過ごしやすくと感じてもらえるような街づくりに貢献したいと考える。</p>	

## 学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

## 【研修参加者】

所属(学部(研究科)・学年): 法文学部経済コース3年

氏名: 鳥居智花衣

授業科目名	グローバル実地研修
1. 研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>語学学校では、英語で英語を習い、特にスピーキングに焦点を当てたグループワークをした。毎日クラスメイトと昨日起こったことなどの日常会話から、教科書のトピックに沿った身近な話題でいくつかの表現を学び、実際に会話や作文で使うことや、4技能各数回ずつのテストを通じて学んだことの定着を図った。4技能の中で、特にリスニング力が伸びたと感じる。ネイティブの英語は想像より早く、最初は聞き取れないことも多かったが、学校の授業やホストファミリーとの会話を通じて次第に耳が慣れ、研修開始時よりはるかに聞き取りができるようになった。また、日常の記録とライティング力向上のために行なった英語での日記作りも含めてアウトプットの機会が増えたことにより、英語の表現力やコミュニケーション能力の向上にもつながったと感じる。</p>	
2. 現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>街を歩く人やバスの運転手など、人々がとても親しみやすく、バスに乗るときは挨拶を、降りる時はありがとうとほとんどの人が伝えていた。さらに休日には公園や海辺や街中で運動をしている人も多く見受けられた。働き方が日本と大きく異なっており、朝早い時間から営業し、夕方3時くらいで閉まる店も多く、仕事終わりに街中のバーで昼間からお酒を楽しむ人も多かった。仕事と私生活のバランスが取れていることが窺えた。公共交通機関はかなりデジタル化・バリアフリー化されており、土地勘のない私たち留学生や車椅子を使う身障者など、全ての人にとって使いやすく、定時性もかなり確保されていたと感じた。オーストラリアは、多文化共生・さまざまな人種が共存している国であると学んでいたが、先住民や黒人に対する偏見や差別は今でも少し残っており、今後の課題であると学んだ。</p>	
3. 研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>水が貴重なオーストラリアでは寒い冬でもシャワーで済ますということは分かっているが、実際のホームステイ生活でも毎日シャワーのみであることに特に抵抗はなかったが、日本に帰って湯船に浸かった時、とても感動した。お風呂をはじめとするこれまで家で当たり前に行っていた生活全てに感謝できるようになった。研修前では鹿児島を長期間出た経験がなく、初めての環境で何をすることも不安だったが、実際に新しい環境に飛び込んでみて、想像より早い段階で、上手く環境に適応できたことから、自信を持つことにつながった。</p>	
4. 地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>地域社会で普段当たり前で享受しているサービスについて、これまでただ利用していただけであったが、この研修や調査を通じて身につけた観察眼を生かして、鹿児島の公共サービスはパースと比較してどんな違いがあるか、利用者にとってどんな利点があるのか、改善点を挙げるとしたらどんなことかなど、アンテナを張って過ごしていきたいと考える。具体的には、普段の生活での小さな気づきを大切に、メモを取り、自分なりに考えることや実際に体験して調査することなどで課題を相対的に捉え、行動できるような力を身に付けたい。</p>	

## 学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

## 【研修参加者】

所属(学部(研究科)・学年): 法文学部 3年

氏名: 矢部みなみ

授業科目名	グローバル実地研修
<p>1. 研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。(250～300字程度)</p> <p>研修先では、UWA CELTでは文法や単語などを主に英語で学びました。週に1回、確認テストがあったため毎週自分の学習を確認することが出来ました。また、私の研究テーマは「パースと鹿児島市のごみ問題について」でした。そのため、鹿児島市のごみ事情をパース市に行く前に調べて、パースに到着してからパースのごみ事情について調査しました。外出するたびに、道にあるごみ箱を観察したり、写真を撮ったり、パース市の中で一番大きなリサイクルショップにいったりパース市と鹿児島市を比較しました。英語学習に関しては、毎日、英語を聞き、話すため、リスニング能力とスピーキング能力が向上したと思います。</p> <p>2. 現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。(250～300字程度)</p> <p>現地の生活を通じて感じたことは、体調だけに関わらず、精神面に関してもお互いに心配する習慣があるということです。例えば、「R U OK? Day」です。これは友人や家族間で精神的に大丈夫であるのかを確認する日のことです。私が通っていたUWA CELTでは、そのイベントもありました。その日に「R U OK? Day」のイメージカラーである黄色の服を来ていくと「自分は精神的に健康である」ということを示すことになります。他には、公園などに青い色の木があります。これは、「君はひとりじゃない、しんどくても、大丈夫じゃなくてもいいんだよ。」というメッセージが込められているらしいです。このようにパースには精神敵健康を大切にしていることを感じました。</p> <p>3. 研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。(250～300字程度)</p> <p>研修する前は、外国人の友達を作ることは言語の壁があるため、難しいと思っていましたが、今回の研修でそのイメージが改善されました。今回行った学校は時期もあり、大半が日本人でした。そのため、外国人の友達を作ることを最初は諦めていましたが、自分で積極的に外国人の友達を作りたいと思い、日本人と外国人の交流会に参加することにしました。一つ目は、JSSという日本が好き外国人が集まるUWAのクラブに参加しました。二つ目はmeet upというアプリを使いました。これを日本語と英語の交流会を見つけて参加しました。この二つを通して冗談を言い合えるくらいの友達を作ることができました。研修前と後で自分が置かれた状況を受け入れて、その状況で自分にできる最善策を考えて積極的に行動できるようになったと思います。</p> <p>4. 地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。(250～300字程度)</p> <p>今後は、今回の実習で得られたことを地域のために活用していきたいと思います。パース市は世界で一番きれいな街といわれていたので、人々のゴミに関する知識や関心も鹿児島の人々よりも高いのではないかと思います。ゴミ問題にテーマを設定しました。鹿児島市も世界できれいな街のひとつに認定されれば、鹿児島市の知名度も上がるし、それに伴って観光客の増加に繋がり、鹿児島市をより盛り上げられると思うので、私はゴミに焦点を当てて、研究を続けていきたいです。目標は鹿児島市とパース市のゴミ問題に関する違いや共通点を探し、まねできるところは、参考にして鹿児島市をきれいな街にするたことと、市民にゴミへの関心を持ってもらうことです。</p>	